七枚起請
武者獨立
徒移之飾
葬禮之次第
社参

土陰日本

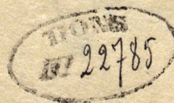


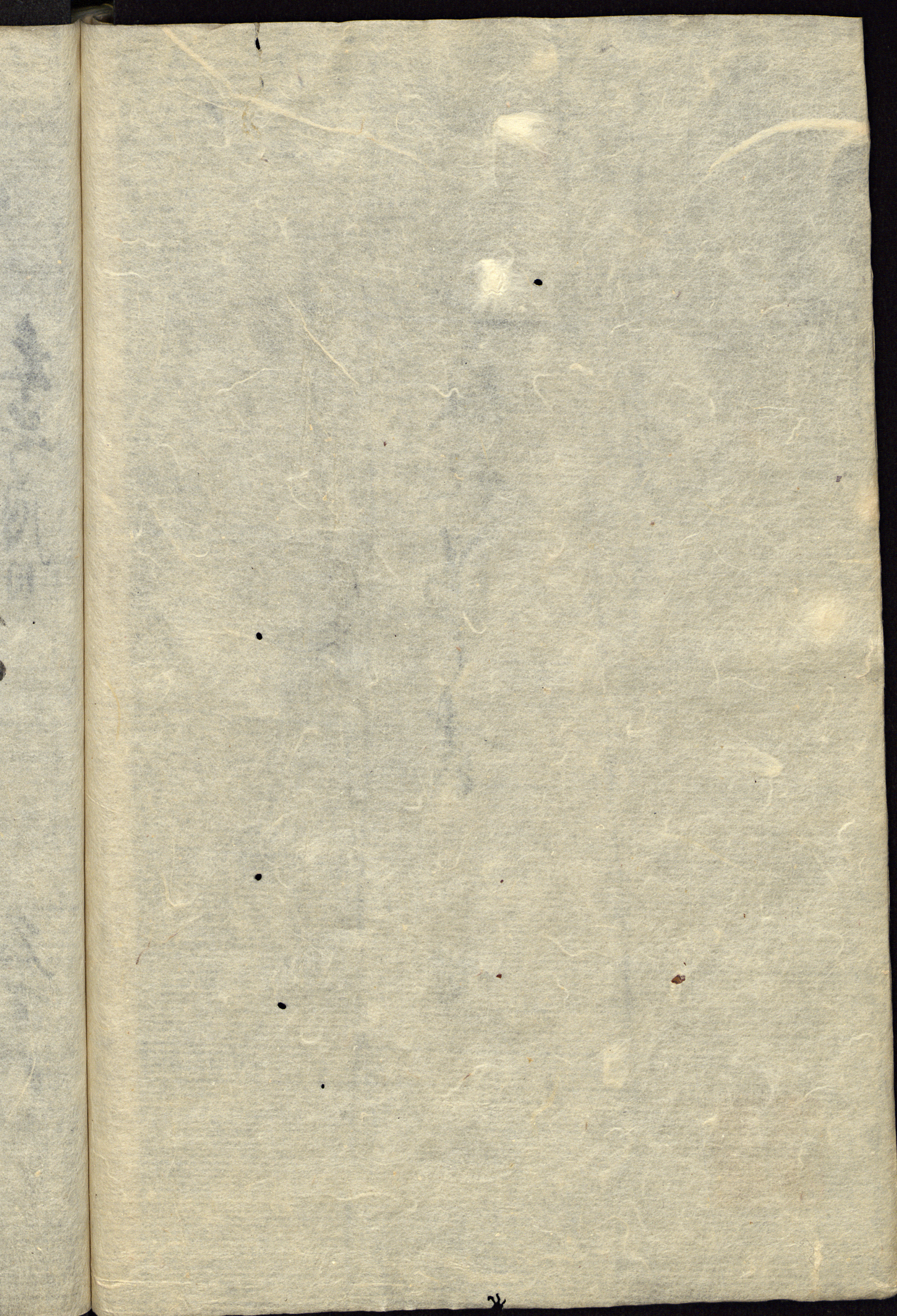
# 七枚起請之書

七







七枚起請之書

敬白奉敬驚七枚起請文之事

一何〻〻事

一何〻〻事

一何〻〻事

右此條々若雖為一事於令違犯者
梵天帝釋四大天王惣日本國中大小之
神祇別而此紙愛宕山大権現部類
眷屬神罰冥罰各可罷蒙者也仍
起請文如件

名字官

年号月日　　名乗判

名字官
名乗判

名字官
名乗判

右初乃段之位の前血判存此
薬指の血をぬるへし

梵天帝釈四大天王惣日本国中六十

余州大小之神祇別而当山紙醍醐山

被教三寶加護可請安堂雨青竜

仍起請文如件

年号月日

右京阿

二之判形前

右二枚目也右の手之無名指の血をとめる也

梵天帝釋四大天王惣日本國中六十余州大小之神祇別而者氏神當所之大権現可蒙御罰者也仍起請文如件

年号月日

右之同し
一二判此所

右之條々若右の血をぬるへし

梵天帝釋四大天王惣日本國中六十

余州大小神祇別氏神殊大峯權現

可蒙御罰者也仍起請文如件

右同し

三判如前

年号月日

年号月日

一三判　如前

右宛段目出頂乃無と如之

梵天帝釈四大天王惣日本國中六十
余州大小之神祇別而氏神八幡大菩薩
可被蒙御罰者也仍而起請文如件

年号月日

右之同し
三行如前

右条数目也右之趣無之者

梵天帝釈四大天王惣而日本国中六十
余州大小之神祇別而氏神紙維八方
發行令日番神可蒙御罰者也仍而
起請文如件

年号月日

右同し　三判紙

右六枚是迄右の足の血紋めへし

梵天帝釈四大天王惣而日本国中六十

余州大小之神祇別而氏神別當

釈迦後世七世間業罷経文勘可請

若悪遣也仍起請文如件

年号月日　　名字同し
　　　　　　三判如常

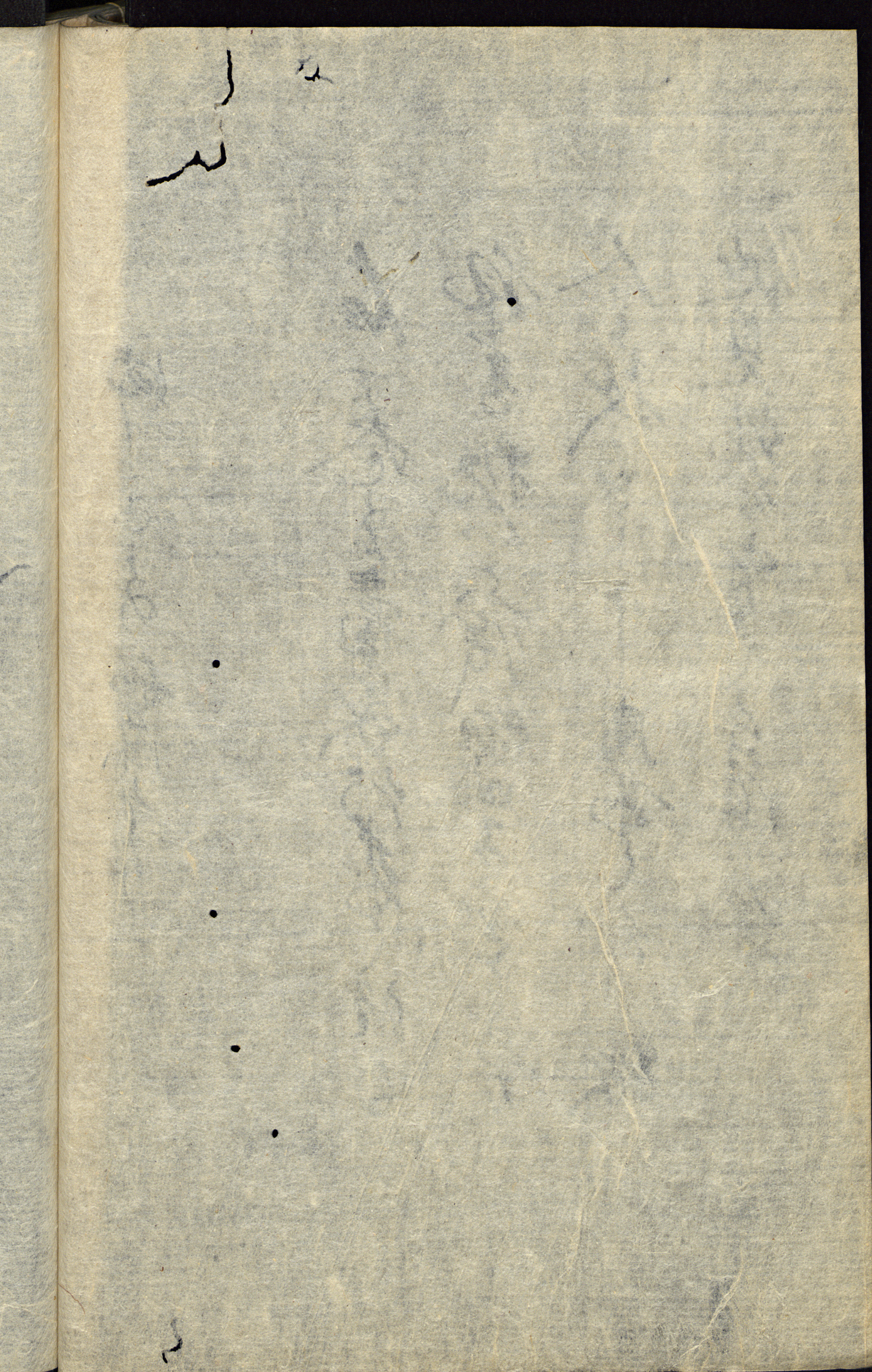
名字官殿

名字官殿

右七枚目ニ書付掌ニ血をぬるへし
是我掛物ニ押玉物違背仕候

海しさとの和讃なり

右一巻者當家代来之注為
秘書挑心不浅依學習之芳
令授与之年月雖之外猥
他見他言有之不可有者也



武者獨立



一 初く具足とゝ肴ヒハ打鮑の肴ニ而て
酒を祝ヒ勧候ハ二こん目ハ数の子の肴ニ而
又酒を祝也 新具足を着く日置
一 具足着く主人貴人ハ無滞候ハ
右手を先草摺ニ而先ニ而次ハ左を
又本ハ結次きに右をまきなり
如此無滞候之後とハ候ハゝは
具足ニ同前之候とも具足候後と
縁側候ニ付右之具足無滞候も
相応なし〳〵ニ而前ニ向左之出也
一 主人ニ具足を着を為ハせ始め候





左の袖と付右の袖とハ我肩ニ生ス
懸く胴とあらせ左の袖と申して
母右の袖と云せ本袖を付也因是
着ル事ニ事ニより生する事一ト部
なり

一 印甲ある時松のろに甲に我向ゆ於
掛く主人よ向ひ合事も着ゆなす之
甚乃緒のさうりさると申して以ふ庭
うしく乃目抗書付くる時ハ不苦
弓手くもゆる也らるへ入向ゆり
気もしすらく

一 軍陣く馬懸沼同前事先ハ進足
他在不縁して進ニ乃

一 軍陣之馬懸候月毎光ハ進退
自在不随して其の得難を為らぬ
次ハ宗旨と云ふ也 次ハ左を見ても星
と合候事に候 二度く抵当常也
志すハ必ず毎に出すも年若く
馬ととりて二尋毎にてさる
奉公御事ハ之下さるへく
まても二ツ取りきれ
まつまて左やうに

一 軍陣之馬繋事の事 進退て
毎ハ家神右へ出す先へ開業
毎日時毛家神右へ先ハ
下から指物揮掛ても左くへと進退
主人挾川と候をことを指不

家なり

一 討捕の馬事ハ其身のかうミよりて
従者ニ家初馬と記しさせ
在之ひきおもふおもしとさす
能ハ従ふ以もの家のわけ見え横ハ
家のことく書る大将ハ家の印をとめ
川の字意書目ニ被しつけり云
志きりかし左の平にしおもふと

毎陣同也

一 敵誅より不退小馬の鳥毛の事有
三毛乃末ハ古き例ハ無し敵方

衆ハ大将の見分あり被仰之

後見之儀

二毛乃來ハ吉也旗ハ直し新方
候ハ大將の見合指と立てにて是を義
右上ニて旗の手をかへ又白髮乃
中を少切く拵相せると付候
家ニすへく又云城ちハ右年中ニ
其外ハ不吉也至ると取て以不て
七本之ニ場所にて根のまハり付く
手の之をらく
討取の道具と見え主人ハ緩持ハ
甲ハ母の紋切當の常事と切く
總別日ニ乃
一 軍陣ニて敗軍の事兆見之の
含小右乃大指を其く取右出て候



疵ハしれ不申と信て指申候へハ猶おゝ
法ハ無之すミ所ハ少も乗無之居候へハ
打まりて乗ハ拝と法ハ申不可有之
一足を右さしくめ少も威勢ハ神て
取して加へまゐる人とも中間ハ十ヶ所
て居番加へ付ハ外の右の方ハ是へ番加へ付
又打居番付神とするハ右へまゐる人
も様とは法くるともも無人ともハ横
とハあまりと右さり足を縮ハ伝
一頭取付ハ付候ハの事太くしらハ
髪とも打之して結付て又口より後ろ

髪と打ちして結付文字より後乃
宍縄とし也して其しかし
後縄の上より付初て
一 我取たる頸と我と無常同じ時は
名字とやうへ 但敵乃大将一家のわ頸
ありしは先頸の名字とこく 三次我名
字とも又 頸若信ありての事く たる
すゝむ事 頸ようるもの 朝敵まと
一家来ことも 下ゝ而まで 正富候
馬よりかく 忠成 主人の事に応た
又と思の後か気て 右取の頸と前
前縄と相へうれ沈とけまちて
かく無御 他所の大将は争て思の

一 緒に手懸て要の上を結締有べし
之のなり

一 御迹に有時は取当る用第一の人
の右之家添り連追第を当て末に
方より押よろを世の沙汰様に上る
時の右の舌氏の後と前衛納の出来
と前衛よ押の後と居も上る也

一 弓長刀を持くは末に前者切九を立へし

一 不回ならて押と第三のめく

一 使わ余人前へて甲納なるの要の紐と
解(トキ)存あるに眦(ビザン)前の間を乱甲とを御
納で太刀を持て甲と服耳左の手にて

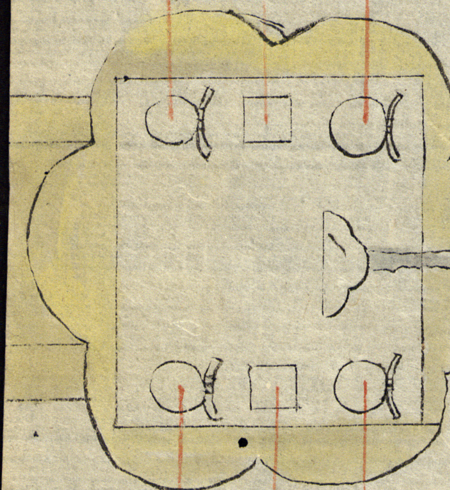
兼て脱て我右の前に集め置て
柄にかゝ勝をく重ねとて一番の
緒の末を分けて甲に差せて可
置合候と云也又口伝あり
出陣の沙汰は緒の紫なり
一甲を脱ぐ時緒に緩めずを一様すく
下に不置甲持大事なり御
のあとせ緒とい常に緩て置也
又ハ紙中に常に緒を出して
又あり莫今臭て常に重
又ハ忠の緒を差く重大将
麻机口伝又ハ下あり不

晝時なりとも
一 味方の幕をしまはせは敵の幕をしまはす
引と云物見ハちらしかへしと云軍監
小向く大将軍の御幕の外行は同
陣幕ハうちまはせてしき候唯今陣場を
取かる時敵の方へ進むしのひ幕
をはり張をおしのけ候ハゝ陣屋を取
出ゆへし候得
一 幕の事何と云軍書にも云敵味方の競
とまたしなへ幕を張たてしともあつ
一 陣中旗立の時幕を赤絶に
軍を勝軍果と云此幕をとりあつかふと

右一巻者當家傳来之證跡為
秘書雖不漏緇塵之損号
令校合之者乎用而不可猥観覧
他言有之間敷者也

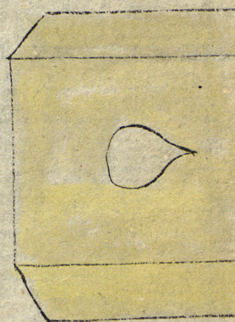
後梅之御 卅六

徙移之飾









置鳥床右

置鳥床左

一 まへ御ゆハひとく鷹まいりするなり
三重ね枝ある松を用也 但金銀にて
とゑ之文 はさミ ひきひかり 梅ニ海月
ひきひとひ枝の子孫 御はし帋

ゟ何を小角まて之間ニ色金銀の
箔を金氷引まて若毎にいふまて
金露の数ニ雲かりを張りし重ね
五色ニまぜ之紙張を先ニ青赤
かゝひわり

一 何を一間寄ね三鋲ハ波まて三ゝ九度
乃洒り統成ハ本

葬礼之次第

四又

一番續松人　　次手売り　　江戸売り

二馬隼人佐　　同売り　　同売り

軍多衆二　三門馬人

鷹人

五旗敵人 六挟地人 七遣人 八長刀人 九甲人 十具足

同本作

同本作

人
人十一挟箱　同手代　同手代
人十二若衣箱
人十四杖笠　同手代　同手代
人十大長持

同上略

人スイ風呂 人 十六斤當 人スイ桶 十七騎馬人 人 十八[illegible]人 人

同上略

大

一十二

廾 廾

下

燈 燈

燈明人 炮術人 廿一旗人 旗人 廿二大敲 信 大敲 信

十九拾 信

燈炒人 燈術人 廿一旗人 旗 廿二大敲 信 大敲 信

廿三鉢僧　汻僧　廿巳燭寮僧　廿五湯瓶人　日菜人

廿香炉僧　廿一炅供

廿三鉢僧　汻僧　廿巳花瓶僧　廿五湯瓶人　日湯人

廿七小價松

女役
廿二御影人　廿三信脚　小笠原春吉〆

九七小價松

九八

九八

手巾掛人　廿九畳紙袋人　卅鞍袷人　卅一團人　卅二

[illegible]人　廿九付子摂人　卅耳钚人　卅一扇人　卅二

左力人卅之力人 高畠勘兵也

九之先縄合結 小笠原ゟ渡 天蓋人所縄

右力人卅三腰指人 海に於縄

[illegible]仕 在判

小笠原大膳大夫 長時

日 右近大夫 貞慶

小池甚之丞 貞成



右此書者別而為秘事依為執心懇望令相伝之

深秘不可有他見者也



行幸巻

廿九

社参之巻



一大将軍又ハ若君姫君御社参之事
吉日良辰を撰ひ御参詣有之也
若君姫君御誕生にて男子ハ三十日
女子ハ百日目御社参なり是を
百日参りといふ三門社権現ニ
乃武士三頭宛つゝ事
一社参の時御輿御手廻り衆



頂戴して至後未来記と而申す
或時尾州大将の精おほ深き時
於京中士卒へお給ひ知略の大事ありし
一 神而祈請尾張古国至後社観
小そ与卒士卒へ銚子提瓶子二三盃
のまく三九の酒とつきくれ給ふ也

折紙



目付 餌指 二人

一 鷹 二人
但[illegible]鳩

一 小鷹 二人

目付 餌指 二人

同二人
大唐二人
同二人

一人

一人

一鷹奉行一人

一人

一人

騎馬

騎馬

徒
鉄炮
弓一人
供侍
一人
一人
一人
一人
小者
一

外

徒
鉄炮
弓一人
供侍
一人
一人
一人
一人
小者

幕箱

同中奉行

幕串十丈

同幕

同奉

野達

幕串

行

幕 丸

[illegible]

[illegible]

鉄炮一人

弓一人

組

組

侍

[illegible]

[illegible]

鉄炮一人

弓一人

組

組

侍

侍羽織桐紋
月付
清水持
四ッ合鞠之濃
てりのひげ 唐半
上下らこちらよ

侍羽織桐紋
月付
清水持
口ろ
右口ろ

つり菓と成しき姫小松
昆布にて飾く

松葉　下侍の役

松葉

金地の末広の繪

黄金　金餝　赤地錦

御初穂箱

白銀　銀餝　白地錦

銀地の末広の鶴

又文紙形の筆

筆書

同奉行騎馬

鉄砲一人　　　　手鑓　　　　弓一人

一人　一人　一人　一人　一人

挾箱　　沓着

魔拂役

身躰緒ニてつゝミ
赤く口の大総上下細

行器

金銀手濃
和竹の注
赤紅大総ヲ付

魔拂役

右ハリ

行器

右ハリ
右同

一人一人ゝゝ一人一人

四　四

丹　丹

金比毛髪絶引綱金

前濵戲絶金剛地

金ゝるへい

もし動のりえ本

もし動こりえ本

紅の毛髪絶引綱

一 [illegible]

[illegible]

同 持

披露

同 持

[illegible]

披露

披露

披露

披露

披露

弓

弓

弓

弓

弓

猩々皮

但黒塗 白革茂
藪金溪の黒蒔絵

何も金のふちまき

長柄

長柄

長柄

長柄

長柄

以

之箱

茶湯役二人

茶弁當

目付二人

挟　挟　挟　挟　挟

箱　箱　箱　箱　箱

挟　挟　挟　挟　挟

箱　箱　箱　箱　箱

臺傘　　長柄傘

目付役　　目付役

歩

行者

一人 一人 一人 一人

一人 一人 一人 一人 一人

刀筒 刀筒

持鉄炮 組ゆ

持弓 組深 支紅

之程度・

宗徒大将

一人一人

近習侍一人一人

一人一人

近習侍一人一人

一人一人

羽の矢

の御箙

挟箱持

床机持

鎗

奉行人

日輪成月輪成
同文威中之下
甲ハ宝方ノ方角
何も支配之

皆紅龍

一堅浪敷之外
　川瀬洗黒毛鎗

茶稽馬

水呑百姓

目付

目付

目付

又同惣人数

目付

目付

目付

大相

大押之侍

大押[illegible]之侍迄

押騎馬

押騎馬

往来の時諸士用之ハ少人数にハ
やとひ侍ても不苦此備當家
には用来るや

右一巻者當家傳來之為
秘書概不淺修學者之
勞令校合之手用而外擬
他見況若有之可敷者也





H+K 2 | GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart | 15.01.2002